

大事なことが、わかりやすく書かれている。

持ち込まれる自分史に共通するのは、やたらに長いということです。書き始めたら、あれも書きたいこれも書きたいと盛りに盛って何千枚と書いてしまう。

出版するのじゃなければそれもよし、としたいところではありますが、そもいえません。というのは、その膨大な原稿の大半が自慢話であることが多々あるからです。

血のつながった子どもや孫だって、おじいちゃんやおばあちゃんの自慢話には辟易するもの。ましてや**他人の自慢話が延々と続く自分史なんて、誰が読みたいと思うでしょう。**

でも、これが自分史の難しさでもあります。苦労話というのは、どうしても自慢めいて聞こえてしまうところがあります。

結局私は三村さんが自慢していると受け取られそうな部分

を**すべて削って**、彼の伝記を仕上げました。ご本人にしてみれば、書きたかったところをずいぶん削られてしまった、と感じたかもしれませんが、読者を意識したら、そうせざるを得なかったのです。

一方年配の女性がハマりがちなのは、「若い頃どれだけ自分がきれいだったかの畏」。若い頃の見てくれが現況よりいくぶんマシであるのは当たり前のことですから、自分史の中でそれをことさら書いたところでおもしろいはずがありません。

ところで、近頃時代は変わってきたなあと思うのは、年配の有名女優さんやタレントさんが、自分が若い頃に、こんな不倫を続けていたとか、不倫相手にこんな仕打ちをされたという話をどんどん公表し始めていることです。え？　ここまで書いていいの？　というような自分史や暴露本とも呼びたくなるような本も出版されています。有名人のその手の本で成功しているものは、書き方に邪心がなくて、どこか**あっけらかんと風通しが良く書かれたものが多い**ように思います。そんな書きぶりであれば、他人ごとながら、**人生のスパイスとして楽しく読める**のでしょう。

ですから、恨み辛みとまではいなくても、誰もが背負っている**“念”**——**“残念”**やら**“執念”**やら**“怨念”**やら——を、自分史に盛り込むことは、けっして悪いことではありません。誰もが持っているものですから、プレゼンテーションの仕方によっては共感してもらえる可能性も高く、あなたの自分史のスパイス的な役目を立派に果たすことでしょう。

つい最近

もある高齢者向けの結婚相談所に取材に行ったら、おもしろい話を聞きました。

男性は奥さんを亡くしたら、割とすぐに相談所を訪ねるそうです。そして再婚相手を探して欲しいと頼みます。そのときに、**わざわざ亡くなった奥さんの写真を持参する人がけっこういるらしいです。**つまり先妻と同じような人を見つけてくれという要望です。

でも、そんなの無理に決まっています。いつまでも亡くなった妻にこだわっていたら新しい奥さんなんて見つかりませんよと相談所の人は助言するそうです。

誰だって、未練がましく、いじいじと亡くなった妻を恋しがる男と結婚しようとは思いませんよね。

一方、女性は「亡くなったご主人の写真を持って来る方など一人もいませんね」ということで、これから新しい生活を仕切り直そうと意欲満々。つまり、女性は過去の恋愛を引き摺らない人が多い。男性は死別、離別を問わず、別れた相手をいつまでも思い出そうようです。

つまり、書くに値しない人生など存在しませんが、**人生のどこをどう切り取るか**で世にもつまらない自分史になってしまうのです。

そこで、ここでは、どのような方向から光を当てればあなたの人生がくっきりと浮かび上がるのか、おもしろさが際立つのか、その方向を七つのキーワードでお伝えしていきたいと思います。

- 1.出自 先祖から引き継いでいる気性。こういう人間にはなりたくない、が、なっていた。
- 2.時代 団塊の世代、調査報告や書物が豊富。ネタになる。時代背景は舞台装置。
- 3.お金 自分の関心事が普遍性をもつ。
- 4.趣味 読者が同じ趣味であれば共感
- 5.宗教 人生に大きな影響を与えることになったトピック。
- 6.恋愛 読者が興味をもつ
- 7.秘密 「聞いた話だが…」として感想を淡々と語る。

私も六十六歳になった現在、これだけは、はっきりと断言できます。もう破れた恋にいつまでも執着していても、ろくな結果は生みません。なるべく早く生まれ変わって新しい歩みの第一歩を始めましょう。なぜなら、結婚というのは、二人が同意しなければ成立しませんが、離婚はどちらか片方が決意すれば、時間はかかってもやがて成立してしまうものなのです。法律的な問題以前に家庭生活は、どちらか一方がやめたいと思ったら、もうその瞬間に崩壊します。

だったら、自分と別れたいと相手が願っていたら、さっさとけりをつけましょう。**悪いのはあなたでも相手でもなくて、ただ組み合わせがうまく機能しなくなっただけです。**

それでも未練を断ち切れなかったら、自分史にその感情を込めて書いてみれば、書き

上がった頃には、もう気持ちの整理はついているはず。まだ整理がつかないですか？ それはあなたの性格があまりに粘着質だからです。体質改善に取り組むように性質改善もするべきですね。(これまでの丁寧な記述雰囲気と異なるツッコミ)

いったいこの果てしない悲しみはどこから湧いてくるのだろう。単純に心情の問題か、それとも世間体や見栄、または既成概念にとらわれているのではないか。じっくり考えてみる必要があります。(この段落は唐突)

使い慣れた言い回しや、よく使う形容詞などは、無意識に繰り返し使ってしまうがちです。同じ単語の重なりや言い回しの重複は読みにくいので要注意。読者に誤解されたり、飽きられたりする危険があります。ワンセンテンスの中で重複があったら別の言葉に言い換えましょう。

たとえば「すごく」「たいへん」「ということ」「……ものだ」などは出てくる頻度が多い言葉です。「有能」「優秀」なども、何か違う言葉で同じ意味芸現できないか工夫してみると、これがけっこう難しい。